

第2回策定協議会における基本理念・具体的施策等についての主な意見

ベースラインすら保障されていない子ども・若者や家庭に対しては、最低限その状況をベースにまで引き戻すために積極的に支援していくという認識を計画の基本部分で読み取れるようにする必要がある。県がストレートに責任を持つところについては、その姿勢を示すべきである。

親、地域、行政がそれぞれ子育てに対しての責任を再認識し、果たしていくというニュアンスが表現されるとよい。

文章で解説が必要な場合であっても、簡潔な文章で表現すべきである。

計画が着実に実行できるよう現場の人材を育成していくべきである。

子ども・若者が地域の原動力となるよう、地域でどういうことを考え、何を実行して欲しいのかを具体的なメッセージとして発信していく必要がある。また、ハード、ソフトの整備のほかに「ハート」も組み込んで欲しい。

横の連携をどのように築いていくかを今の段階から考えておかないと、実践の段階でつながりにくいのではないか。

基本理念の2行だけを見たときに、解説のような深い意味が果たして読み取れるか疑問である。また、親、地域、社会が子ども・若者と一緒に育っていくというニュアンスが基本理念から読み取れるとよい。

子ども・若者に一番近い地域が、子ども・若者を助け、育て、教えていく環境をつくっていかねばならない

企業や学校など様々な主体が一緒になって、今の時代にあった人と人をつなぐ「のりしろ」を新しくつくっていく必要がある。

基本理念について、「子どもの声、若者の姿が響く滋賀」とか、「見かけられる滋賀」というふうに、たくさん子どもがいる姿というのを思い浮かべられるような表現にしたらどうか。また、子育て検討会報告書にある「気づきと共感」や「絆づくり」という言葉が入っているといい。

施策が総花的である。滋賀県で特に課題になっていること、緊急に対処すべきことから始めるようなことをどこかで謳うべきではないか。財源が限られている中で、何でもかんでも「支援」というのは無理である。

示された基本理念は他県でも通用するものである。(滋賀県特有のものが感じられない。)

若者の立場から言うと、「地域力」が何なのかわからない。「地域」はとても遠い存在。どうすれば地域活動に関わっていけるかなどについて、若者に知る機会を与えて欲しい。若者が地域をどのようにとらえているかを踏まえて、どうやって地域とリンクさせていくかを考えるべきではないか。

地域の子どもやそれを指導する者の育成を進めるためには、ハード面も含めて、その環境を整えていく必要がある。

「滋賀らしさ」は、例えば、「淡海発 三方よし 子育て支援から自立まで」といった具合に計画の副題として表現してはどうか。